



感染症プラチナ流コンサルト

岡 秀昭・川村隆之・
西田裕介・山下裕敬 著

● A5 頁 152 2020年9月
定価：本体 2,000 円＋税
[ISBN978-4-8157-0304-2]MEDSi 刊

私が岡先生を尊敬する理由の一つに岡先生が素晴らしい教育者であるということがあります。岡先生は、自身が長い修行期間を経たのだからといって、教え子にも同じ期間の修行を要求するタイプの医師ではありません。

さて、感染症科にご相談いただく症例のなかには、発熱に対して必要な培養検査のみならずアセスメント不在で抗菌薬が処方されているケースがわんさかあります。少しでも臨床感染症を勉強したことのある人にとっては、こういったプラクティスが間違いであることは明白です。しかし、こういった症例に対して正論を相手にゴリ押しすれば、面倒なやつだとレッテルを貼られ、コンサルトが来なくなり、感染症科はいずれ沈没してしまうでしょう。私自身もそういったケースの主治医に対してネガティブな感情をぶつけてしまったことがありました。しかし、現在では長期間および頻回に同様のケースに曝露された結果、耐性機序を獲得しネガティブな感情は排泄ポンプですぐに排除され、日々の表情筋のトレーニングで感情を抑えた顔を持することができるようになりました。とはいえ、私が“悟り”を開くまでにはある程度の期間が必要であったのは事実であり、そこに至るまでにいくつものトラブルがありました。

岡先生ご自身がおそらく長い歳月をかけて体得されたであろう感染症コンサルテーションの極意が、本書で惜しみなく誰もが“短期間”で身に付けられるように紹介されています。岡先生の7つの極意は、私が普段から大切にしていることに近く、これは臨床感染症医が大事にしている暗黙知であると思います。その暗黙知が本書ではとてもうまく言語化されており、伝えるのが難しいことを上手に教える岡先生はやはり一流の教育者なのだと再認識しました。また、この極意は“感染症診療”に限ったものではなく、AST (antimicrobial stewardship team)の取り組みや、他科コンサルテーションなどにも応用できる普遍的なものでもあります。

本書の構成は、前半部分は7つの極意が症例ベースで紹介され、後半部分は応用編としてカンファレンス形式となっています。特に後半部分では、埼玉医科大学総合医療センター総合診療内科・感染症科の雰囲気を感じることができ、感染症・総合内科の修練の場所として非常に魅力的な組織と思いました。

本書を手にとられたみなさんは、最速最短で極意を会得し、自信をもってコンサルテーションを行えるようになってほしいと思います。